

令和6年度 群馬県立農林大学校評価システムシート

目指す学校像		群馬県農林業の多様な担い手育成		
重点方針		1 質の高い教育の実行 2 実績の上がる学生募集の実行 3 実績の上がる進路指導の実行 4 県民の期待に応えられる研修の実行		
番号	重点方針	現 状	評 価 項 目	取 組 内 容
1	質の高い教育の実行	本校は群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立高等教育機関である。 農林部には2つの学科、6のコースがある。農業経営学科は、野菜コース、花き・果樹コース、酪農肉牛コース、社会人コース、農林業ビジネス学科は農と食のビジネスコース、森林コースからなる。定員は100名である。 1 実習等を通じた実践学習を教育の基本としている。 2 課題解決型の研究に取り組み、主体的に学ぶ力を育てている。 3 人間力を身につけるために、1年次は全寮制とし、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育てている。 4 農林業の国際化や技術・情報の高度化、農業の6次産業化に対応できる技術の習得や組織活動等のマネジメント能力を養成し、経営力を身につけている。 5 国際水準GAPを教育カリキュラムに導入し、農場等での実習を通して、農業生産技術に加え国際感覚を兼ね備えた担い手を育成している。 6 平成31年3月に、新たな施設園芸経営の形を創造する拠点として「ぐんまイノベーションファーム」を設置した。地域農業を牽引する優れた経営者の育成をめざすとともに、地域に開かれた実証モデル施設として最先端技術を発信している。 7 令和5年3月に公表された「群馬県みどりの食料システム基本計画」に基づき、持続可能な農業(特に有機栽培)の取組を強化し、有機栽培に取り組む生産者を増加させるため社会人コース「有機農業専攻」を令和6年度に新設した。	・学生にとって分かりやすい授業の実施 ・学生がやる気と自信の持てる教育	・授業評価に基づく授業方法の改善 ◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上 ・よりよい授業のための職員の資質向上 ◎新任職員向け研修等の実施 2回 ◎アクティブラーニング型授業見学 1回 ◎専門研修への派遣 3人以上 ◎OJT研修への派遣 1人 ・DXを活用した、効率的でより効果が高い指導方法の推進 ◎DX研修の実施 2回(9人以上) ◎動画作成研修派遣 1人以上 ◎動画作成演習 1動画作成 ・主体的・対話的で深い学びの実践 ◎電子図書館の活用推進 1回 ◎アクティブラーニング型授業 随時 ◎課題研究活動 1課題 ◎農水省「みどり戦略学生チャレンジ」参加 1グループ以上 ・実習等におけるリスク管理意識の向上(職員向け) ◎ヒヤリハット事例の共有化 随時 ◎刈り払い機安全研修 1回 ◎農業安全指導者研修 3人(学生向け) ◎刈り払い機の安全衛生教育 1回 ◎伐木等の特別教育 1回 ◎農業機械研修 1回 ・課題研究・意見発表等への取組の強化 ◎全国大会出場 1名以上 ◎関東大会前発表指導 3回 ・国際水準のGAPを実践 ◎野菜コースのGAP審査更新 ◎農林大GAPの内部審査 1回 ・スマート農林業の実践 ◎スマート農林業の活用 各コース ・DX活用による効率的な農業の実践 ◎イノベーションファーム運営 2コース ◎KSASサービスの活用 1コース ・六次産業化学習の強化 ◎六次産業化論 「おおむね満足」以上80%以上 ◎特別講演会 1回 ◎販売学習 4回 ◎地域等と連携した商品開発 1 ◎地元企業と連携した学習 1企業 ◎販売促進資材の作成 1コース ・有機農業の担い手育成 ◎「有機農業論」、「循環型農業論」 「おおむね満足」以上80%以上 ◎社会人コース 「おおむね満足」以上80%以上 ◎就農率 80%以上 ・プレゼンテーション能力の向上 ◎キャリアデザインⅠ 1年生 ◎学年集会時(1分間スピーチ) 3回 ・基礎学力向上 ◎計算力確認テスト 2回 ・学業優秀者の表彰、 ◎1年次、2年次、2年間の優秀者表彰 ・社会生活の基本を身につける ・寮生活を通して規律、協調、思いやりの精神を育む教育の実践 ◎1年次 全員 ◎2年次 原則希望者 ・あいさつ運動の実施 ・メンタルヘルスの実施 ◎入校後面談(5月) 1年生全員 ◎スクールカウンセラーの設置 2回/月

番号	重点方針	現 状	評 価 項 目	取組内容
				<ul style="list-style-type: none"> ・生活態度優秀者等の表彰 ◎1年生 各コース1名
			・地域、外部機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献等 ◎箕輪城周辺の環境整備 1回 ◎地元小学校との交流 1回 ◎地元マルシェ等への出店 7回 ・農業技術センターとの連携による害虫発生予察情報(果樹関係)の提供 ・イノベーションファームの活用 ◎視察等受け入れ 10回 ◎農業技術センターとの連携による最新技術の実証と普及 3品目
			・教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・DX活用による効果的な学習の実践 ◎学習導入調査 1回 ・ICTを生かした新たな授業方法の展開 ◎高性能林業機械のシミュレーター操作 ・Webによる発表会や就職試験等への対応強化 ◎教育棟のWi-Fi接続 100% ◎農林大スタジオの活用 随時 ・寮における学習環境の改善 ◎Wi-Fi接続 100% ◎冷暖房完備 100% ・キャンパスの環境美化 ◎環境整備の実施 8回
2	実績の上がる学生募集の実行	<p>1 少子化により減少傾向であった入校生も、HPの更新や学生募集の強化、PRにより令和4年度までは8割程度を確保していた。しかし、令和5年度は6割程度に減少し農業や農林大の魅力を広く知らせる必要がある。 定員100名に対し、平成31年度86名、令和2年度83名、令和3年度78人、令和4年度82名、令和5年度59名、令和6年度59名で推移している。</p> <p>2 近年、非農家出身者が増加しており、令和6年度入校生は71%を占めている。なお、女子学生の割合は、令和6年度は27%(令和5年度20%)であった。</p> <p>3 入校生の約6割が農業高校出身者(令和6年度入校生:55%)であり、農業高校との連携とともに普通高校へのPRも積極的に行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入校生の確保 ・学生募集の強化 ◎入校予定者数 80名以上 ◎プロジェクト会議 3回 ◎高校生・保護者向けPR資料の作成・配布 55校 ◎新農業人フォーラム等参加 2回 ◎高校進路説明会への参加 20回 	
			・農林大学のPR	<ul style="list-style-type: none"> ・学生参加型のオープンキャンパス開催 ◎参加者数 120名 ◎参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上80%以上 ・県内高校への学生募集訪問 ◎高校訪問 県内全校 ◎幹部職員による訪問 10校 ◎経営企画職員等による訪問 45校 ・広報の活用 ◎FMぐんま 1回 ◎上毛新聞(県内高校生全員) 1回 ◎学校案内 3,500部 ◎ポスター 300部 ◎農林大クリアファイル 1,000部 ・情報発信の強化 学校案内やホームページによるPR ◎HPの更新回数 100回以上 ◎動画の配信 10回 ◎学校案内の二次元コードの活用 ・全寮制に対する不安解消 ◎寮生活の紹介 1回 ◎農業高校へOBOG等の派遣 1校
			・農業高校等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・連携会議等を通じた情報交換 農業高校の担任等へのPR強化 ◎連携会議 1回 ◎高校教員見学会 1回 ・学校見学会の積極的な受入れ ◎受入れ 随時 ・職員派遣講義による高・大連携の強化 ◎職員の出前講義 3回

番号	重点方針	現 状	評 価 項 目	取組内容
3	実績の上がる 進路指導の実行	1 キャリアデザインⅠ・Ⅱ（共通専門科目） 1年次は多様な講義・演習を通じて社会で働くための基礎的な知識を習得する。2年次は就農・就職等の希望する進路に合わせた班別講義・演習等を通じて進路決定のためのスキルアップを図る。 就農班：就農計画作成、資金計画、農業共済制度、県就農支援対策、農業実践者等の講義、就農相談等 就職班：就職活動の心得、面接・グループ討議演習、プレゼンテーション演習等 ※令和5年度進路（卒業生73人）の内訳 就農（雇用就農含む）：19人（26%） JA等農林業関係団体：20人（27%） 民間企業：25人（34%） 公務員：5人（7%） 進 学：2人（3%） ※就農率：（森林コース除く）26%、うち雇用就農率58% 林業就業率：42%	(1年生) ・進路希望の把握と進路指導体制の強化	・進路方向の決定と進路別指導 ◎新入生面談 1回 ◎3者面談 1回 ◎進路希望調査 2回 ・進路ガイダンスによる指導 ◎ガイダンス 1回 ◎編入指導 随時 ・就農・就業の促進 ◎農林業法人説明会 1回 ◎進路内定者報告会 1回 ・マナーアップの促進 ◎マナーアップ講座の開催 1回 ・就農・就業（林業）への支援 ◎先進地等農林家体験学習 2年生 53名 社会人コース 10名 ・海外研修への参加誘導 ◎研修制度の紹介 1回 ・農業次世代人材投資資金の活用 ◎就農準備資金説明会 1回 ・緑の青年就業準備給付金の活用 ◎説明会 1回
		2 先進農林家等体験学習 1年次の3月～2年次の9月の期間、26日間の体験学習を通じて、就農・就職（林業）のマッチングをねらう。	(2年生) ・きめ細やかな進路別指導	・就農者、雇用就農者、就業者への支援 ◎進路決定率 100% ◎就農率 40% ◎林業関係の就業 50%以上 ◎学内企業説明会 1回 ◎農業法人協会、農業業経営士、農村生活アドバイザーとの連携 2回 ◎就活セミナー 3回 ◎面接等演習 4回 ◎就業後の職場定着に向けた取組 1回 ・編入学希望者への支援 ◎ガイダンス 1回 ◎編入学指導 随時
		3 就職試験受験報告書の作成 4 就職試験直前模擬面接の実施 希望する学生に対し、校長等が面接官となり面接指導等を行う。 5 編入学ガイダンス	・専門資格取得教育の強化	・補講の実施 ◎毒物劇物取扱者 30%以上 ◎危険物取扱者(乙4類) 30%以上 ◎農業機械系資格 100% ◎狩猟(わな猟)免許 100% ◎日本農業技術検定2級 30%以上 他
4	県民の期待に応えられる研修の実行	1 ぐんま農業実践学校（R5定員：102名） 新たに農業を始める人などを対象に、野菜栽培の基本技術の習得を支援する。 ○令和5年度の見直し内容 【廃止】春夏・秋冬平日コース(各22) 露地ナス・秋冬ネギコース(10) 【新設】有機農業コース(20) ※令和6年度からは、いちごコースを新設	・多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営	・研修生の確保やニーズに対応したコースの充実 ◎研修生の定員確保 100% ◎修了時の就農率 野菜専門技術コース 100% 実践学校全体 90% ◎修了3年後の農業従事率 80%
		2 農業機械研修 大型トラクター基礎・けん引研修（免許取得研修）、農業機械安全利用研修、整備研修、運転技能研修（共催）を実施。R5年度は、延べ900名以上の学生や農業者が参加。	・県民ニーズに対応した農業機械研修の実施	・農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得 ◎大型特殊自動車免許等取得合格率 100% ・スマート農業機械を用いた研修 ◎スマート農業機械研修の開催回数と受講者数 15回／240名
		3 「農と食のふれあい講座」（公開講座） 一般県民を対象に、農林業への理解や親しみを持ってもらうため、野菜、花、果樹の栽培技術や農業機械の取り扱い、農産加工に関する講座を計7回開催。	・農林業に対する理解を深める公開講座の開催	・職員の専門性を生かした講座の実施 ◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上 90%以上